

群馬県総合教育センター幼児教育センター ぐんま幼児教育センターだより

第47号 令和5年10月

人生の土台を築く幼児教育

群馬県総合教育センター
所長 古市 功



先日、スーパーに買い物に行ったとき、とても素敵な親子の姿を目にしました。

お母さんは生まれて間もない赤ちゃんを前抱っこしています。カートを押すのは、三歳くらいのまだまだ、小さなお姉ちゃんです。お母さんのお手伝いをして、納豆や牛乳を手にとってカゴに入れ、カートを押しています。お母さんは、その都度「ありがとう」「すごいね」と、優しく声掛けをしています。張りきってお姉ちゃんは、上機嫌でカートを押しますが、ぶつかりそうになると、お母さんがそっと手を出して止めています。

ジュースのコーナーに行くと、お母さんが「ひとつだけ」と手と口で合図している様子、オレンジジュースか、リンゴジュースか悩む様子を、お母さんはじっと待っています。十秒か、二十秒か、お姉ちゃんがリンゴジュースに決めて、手に取ると「えらいね」といって、お母さんは頭をなでてあげました…。

何気ない数分の様子でしたが、このお母さんの姿にとっても心を洗われました。こうした日々の親子のかかわりの中で、小さいお姉ちゃんの自己肯定感や自己効力感、我慢強さなど、これから生きていく上での土台の力がしっかり身に付いていくのだと確信しました。

現在、県教育委員会では、非認知能力の育成に視点を当てた研究を進めています。一般的に非認知能力は、認知能力と比較して、身に付けると長期間、維持されるそうです。優しさや思いやり、協力性、我慢強さ、自立心など、幼児期に身に付けた非認知能力は、その後の人生の土台となって、その人を支えていってくれることとなります。こうした面から考えても、子どもが成長していく過程で、親元を離れ、初めての集団・社会生活となる幼稚園・保育園・学校子ども園等での幼児教育は極めて重要であると感じています。

ロバート・フルガムの有名なエッセイ「人生の必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」にもありますが、ずるをしない、人をぶたない、みんなで分け合うなど、本当に大切なことは、幼児期の遊びや生活の中から子どもたちが身に付けていくものばかりです。

現在、幼児教育に携わる皆様には、日々、大変な御苦勞を頂いているものと思います。本当にありがとうございます。幼児教育センターでは、これからも頑張る皆さんを精一杯サポートしていきたいと思っております。共に課題を共有し、人生の土台を築く幼児教育の充実に向けて努力していきましょう。

「ぐんま幼児教育センター
だより第47号」をお届け
します。

- 1 ページ：「群馬県総合教育センター所長による巻頭言」
2 ページ：「今年度の研修講座について」
3 ページ：「今年度の夕やけ保育研修会について」
4 ページ：「幼児期の教育コラム」

今年度の研修講座について

＜9月27日現在の状況＞

今年度はコロナウィルスが5類となり、
社会経済活動が再開されました。

本センターでも研修講座のねらいに応じ
て、集合研修とオンライン研修に分けての
研修となりました。

研修講座で得た学びを、日々の園生活や
幼児とのかかわりに生かしていただきたい
と思っております。

幼稚園等3年目経験者研修

・研修日数：1日（オンライン1日）

＜受講者の声＞

今、一番悩んでいる気になる子の行動を他の
園の先生方と共有できたり、どのように対応し
ているかを聞けたりしたことがよかったです。
また、気になる行動のABC分析が自分には勉強
になり、すぐにクラスの子で考えられると思
いました。この学びを今後の保育にしっかりと生
かしていきたいです。

幼稚園等5年経験者研修

・研修日数：2日（オンライン2日）

＜受講者の声＞

5年目になり、ちょうど個の成長と集団の成
長、学級経営に悩んでいたところなので、と
ても参考になりました。新採用の時に比べれ
ば、少し分かってきたところもありますが、
年々「自分の目指す保育とは」を考えると、
何が目の前の幼児に最適な保育なのだろう
かと悩みます。研修を通して、幼児の成長や
教師の在り方について、学びたいと思いま
す。

幼稚園等中堅教諭資質向上研修

・研修日数：4日（集合1日オンライン3日）

＜受講者の声＞

カウンセリングマインドの講義では、保護
者の方の相談に対して日頃からできる関わり
方について学ぶことができました。特別支援
教育では、関係機関との連携や職員間での
共通理解の大切を改めて学ぶことができま
した。課題研究では先生方との意見交換も
でき、有意義な研修となりました。

幼稚園等新規採用教員研修

・研修日数：7日（集合2日オンライン5日）

＜受講者の声＞

各園の週案や日案を見ることができ、様
々な書き方があることに気づきました。「園
内研修に関するねらい」や「家庭との連携」
など、自園では書かれていない項目も多
くなり、大変勉強になりました。

また、今回の講義で学んだ「はう運動」
を取り入れてみたいと思いました。はいはい
を取り入れることで、幼児にどのような変
化があるのか楽しみです。

新任幼稚園等園長研修

・研修日数：2日（集合2日）

＜受講者の声＞

協議で、いろいろな園長先生方と各園の
現状や課題について、聞くことができ、ど
の園も同じような課題を抱えていること
が分かりました。課題解決に向けては、時
間がかかりそうではありますが、少しづ
つ自園で取り組める方法を考えたいと思
います。

ありがとうございました。

新任幼稚園等副園長・教頭研修

・研修日数：1日（集合1日）

＜受講者の声＞

研修を通して、教頭としての服務につ
いて理解を深められた事がとてもよかつ
たです。また、講義で学んだ「コーチン
グの技術」を活かして先生方の悩みや不
安を改善していきたいです。

本日学んだマネジメントについては、園
内研修でも活かしたいと思います。

幼児教育研修講座

・研修日数：1日（オンライン1日）

＜受講者の声＞

年齢によって遊び方が大きく変わって
いくことを感じる事ができました。子供
は大人の姿を見て育つと言うが、環境
から子供に対して様々な興味を引き出
しているという言葉が印象的であつた。

子供の考え方は無限だと改めて思う。

今年度の夕やけ保育研修会について

< 9月29日現在の状況 >

今年度はオンラインで6回の研修を企画し、残り3回となりました。
毎回盛り上がり、たくさんの皆様のご参加をいただいています。感謝申し上げます。
オンライン研修ですので、どうかお気軽にご参加ください！
以下に受講者の声を掲載します。

保育Café 「くっちゃんべり亭」

教材研究（6月27日開催）

先生方の生の声をたくさん聞くことができ、とてもためになりました。
今日得られた情報やアイデアを園に持ち帰り、共有したいと思えます。
今日は本当にありがとうございました。

幼児理解・保護者支援（8月24日開催）

幼児が何を考えているのか、どうしてその行動をしているのかを考えながら関わっていくことの大切さを感じました。行事が増え、幼児が自由に遊べる時間は減ってしまうからこそ、気持ちを汲み取っていこうと思いました。また、保護者との関係性を築いていくためにも、自分から近づいたり、幼児のいいところを伝えながら関わっていこうと思います。

発達理解と保育

気になる幼児の理解と対応（8月30日開催）

今回異動となり、対象児の年齢がグッと低くなり再度学び直したいと思い研修を申し込ませていただきました。今は不安を抱える保護者への寄り添い、そして早期発見につながる対応を必要とする部署で働いております。研修の感想は一言で言うと「面白かった！」
凝り固まった脳が新しい情報や専門的な情報を得て活発に動く感じがしました！
参加させていただきありがとうございました。

今年はまだ2回あります
① 10月25日 15:10～16:40
保育Café 「くっちゃんべり亭」
(環境の構成)

募集中!

お申し込みはこちらから



② 11月15日 15:10～16:40
講師
日本体育大学 准教授 臨床心理士
宇部 弘子 氏

演題

「子供の育ちを支えるために(仮)」

お申し込みはこちらから



夕やけ保育研修会 特別講演会

募集中!

日時：12月25日(月) 14:30～16:30
講師：鳴門教育大学大学院 教授 佐々木 晃 氏
演題：遊びはごちそう 学びは栄養 - 保育技術を科学する -

佐々木 晃 氏の著書の一部を紹介します。
0～6歳児「健康な心と体を育てる」保育
東洋館出版社 (2023)

0～5歳児の非認知的能力 事例でわかる!
社会情動的スキルを育む保育
チャイルド本社 (2018)

お申し込みはこちらから



「夢中」を考える

先日、ある園を訪問した際、幼児が縄跳びに挑戦する場面に遭遇しました。この園では、縄跳びに挑戦するときに乗るための台が置いてあって、そのときは3人の幼児が交代で挑戦していました。



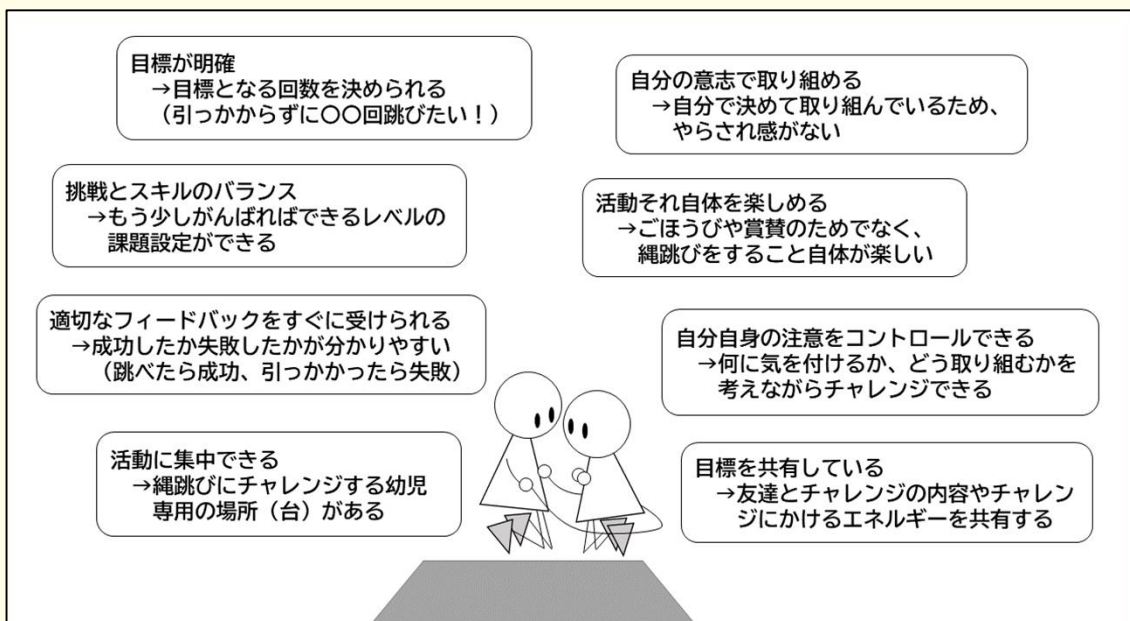
1人の幼児は、何回跳べるかに挑戦。失敗してもくじけず、挑戦を続け、何回目かの挑戦で新記録を達成。笑顔で先生に駆け寄り、嬉しそうに報告していました。

あとの2人は、2人で一緒に跳ぶことに挑戦。なかなかリズムが合わなかったり、跳んでいるうちに近付いてしまったり、なかなかうまくいきませんが、失敗すると顔を見合わせて大笑い。うまくいくための方法を相談しながら、何度も何度も挑戦します。

私自身も縄跳びが好きなので、縄跳びに夢中になる気持ちに共感しながら楽しく眺めていたのですが、そもそも「夢中」とはどのような状態なのでしょう。

「フロー」という言葉があります。これは心理学者のチクセントミハイが提唱した理論で、「対象に惹かれてその行為に集中し、楽しさや流れるように行動していることを感じる」状態です。身近な言葉で言えば、「没頭」「夢中」「熱中」が近いでしょうか。漫画『ブルーロック』でも取り上げられたので、そこでご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

この状態になるために必要なこととして、以下のようなポイントがあるとされています。それぞれ、縄跳びの場面を例に考えてみましょう。



上記の条件は必ずしも全て備わっていないかもしれませんが、これらは幼児教育で大切にしている「遊ぶ」と密接に関わっていることが分かります。フロー状態は、充実感や達成感、活動に対する楽しさや面白さ、自己成長を引き出し、もっとその活動をしてみたいという意欲を高めてくれます。つまり、幼児が夢中になって遊ぶこと自体が、非常に価値のあることだと思うのです。

大人はつい、結果として生み出されたものに価値を見だしがちです。もちろん結果も大切ですが、それよりも、今、目の前の子供が感じている「夢中」を大切にしたいものです。

参考文献：『フロー体験入門—楽しみと創造の心理学』 M.チクセントミハイ(著)、大森弘(訳)、世界思想社
『ブルーロック』金城宗幸、ノ村優介、講談社